



地域インターンシップ世田谷

# 世田谷で 街なか留学

「地域インターンシップ世田谷」事業説明



地域インターンシップ世田谷実行委員会  
世田谷区 子ども・若者支援課



# 事業の目的

- 01 学生が地域に関わる機会を増やし
- 02 活躍できる場をコーディネートすることで
- 03 地域を支える人材が育つプラットフォームをつくる

地域インターンシップ世田谷は、世田谷のまちに住み、通い、通り、使い、興味を持っている学生に、「世田谷のまち」をもっと身近に感じてもらい、ファンになってもらうことを目的にした事業。

この事業を効果的に行うことにより、世田谷のまちを「地元」のように思い、世田谷のまちに関わる若者を増やし、世田谷のまちの将来の担い手が増えることを狙います。





# 実行委員会

実行委員会は、2021年度よりスタート。

3年目となる今年度は、以下の関係者で組織し、お互いの情報や知見の共有・負担の分散をしながら進めます。



**CFFジャパン**  
**世田谷コミュニティ財団**  
**NPOインターンシップラボ**

派遣コーディネート



**区内在住・在学の学生**  
**インターンシップ卒業生**  
**区内大学教員**

運営&インターン生のサポート



**地域活動団体**  
**地域活動実践者**

受入れプログラム作成  
学生受け入れ

実行委員会 事務局（運営全般のサポート）



# 事業内容

世田谷のまちで活動する地域団体などに、大学生を中心としたインターン生を派遣するコーディネートを行います。

派遣期間終了後、インターン生による主に学生向けの団体見学会を行います。

これらを通して、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築します。

## 内容

step 1	受入れプログラムの収集とコーディネート	学生に「受入れプログラム」を提示しながら、応募学生・受入れ団体双方の希望に沿ったコーディネートを行い、応募学生をインターン生として受入れ団体に派遣します。
step 2	プログラム期間中のサポート	インターン生・受入れ団体からの相談の対応、受入れ団体同士の情報交換の場づくり、プログラム参加者の活動のウェブ発信をサポートします。
step 3	団体見学企画の実施	受入れ団体を紹介する「団体見学会」を企画する作戦会議を実施。インターン生が自身の友人をはじめ、家族など身近な人を想定した団体を見学する企画の立案をサポートします。
step 4	継続的な関係性の構築	翌年以降、インターン卒業生が本事業の支援者になる為の仕組みづくりやコーディネートを行い、世田谷のまちへの継続的な関わりを構築します。



# 年間スケジュール

## 5月 プログラム作成

受入れ団体からプログラムの提案を集め、受入れ団体を確定させます。

## 6月～7月 募集・マッチング

ウェブサイト・SNS、大学教員などを通して、インターンに応募する学生を募集します。

学生向けの説明会を開催し、学生と団体などをマッチングします。

## 7月末～ インターン プログラム開始

期間中に毎月1回程度、作戦会議（交流会）を開催します。

また、インターン生による情報発信を実施します。

## 11月～2月 成果の発信

インターン生による団体見学会を実施します。

支援者への報告会等を実施します。



# 区と協働による事業展開

本事業は、「世田谷区未来つながるプラン」の「分野別計画等における主な取組み」にある「若者の交流と活動の推進」とも合致する事業。実行委員会のみならず、区にとっても協働する意義が非常に大きい事業と言えます。

## 若者の地域での交流と活動参画を拡大する

若者の交流と活動の推進を事業として行っている区との協働により、より効果的に、若者が主体的な活動の中で自立や成長できる場をつくり、地域や社会とつながることを促します。

## 公共的な視点をもつ若い担い手を増やす

区とともに行うことで、公共性の高い仕事に関心がある学生に、受入れ団体の視点だけでなく、社会全体を意識した視点でのまちを知る機会を提供することができます。

## 関係者からの事業への信頼性が向上する

若者向けの施策やプロジェクトの展開で若者の参画実績を持つ区とともに行うことで、関係者への信頼性があがり、より円滑に学生・受入れ団体への負担も少なく事業を展開できます。



# 期待する成果・波及効果

## 世田谷区 子ども・若者支援課

区の媒体を活用して周知・PRすることにより、学生が活動の場を知ることができる機会が増えます。

地域が抱える課題を学生の目線で発見し、課題解決に向けて区とともに取り組むことが可能となります。

若者が愛着を持って地域活動に加わることで、地域の活性化につながり、区民の満足度向上が期待できます。

## 地域インターンシップ世田谷実行委員会

信頼性の向上により、協力機関・団体が増加します。

公共的な視点をもつ若い担い手が増大します。

若者の地域での交流と活動参画が拡大します。





# 将来の展開①

## 世田谷区 子ども・若者支援課

### 未来の担い手の発掘

地域社会の未来の担い手である若者を、発掘し育てることができる事業です。

### 新たな事業展開

学生が地域活動を経験し、新たなつながりが生まれることで、地域を支えるネットワークが広がり、新たな事業展開につながることを期待できます。

## 参加の好循環が生まれる土壌づくりへ

事業が継続していくことで、地域活動を経験した若者が地域に根付きます。

その姿をロールモデルとし、地域の子どもたちが活動に参加する好循環が生まれる土壌をつくることで、地域が活性化することも期待できます。





# 将来の展開②

## 地域インターンシップ世田谷実行委員会

### 若者交流と活動の推進

事業を継続することで、インターン卒業生の先輩・後輩同士が教え合う・支え合うような自然発生的なコミュニティ形成が期待できます。

### 協力者や支援の拡大

つながりを大切にして継続することにより、毎年多数の学生のインターンシップへのエントリーを促進する。事業への運営・資金・場などの支援者を獲得し、事業の持続可能性を高めます。

## 地域の学生の成長を支える プラットフォームに

地域へのインターンシップを行政と協働で行うことは珍しく、本事業は先進事例となるプログラムです。将来的には、団体や大学なども巻き込んだ公共的なインフラとして学生の成長を支えるプラットフォームにしていきたいと考えています。



地域インターンシップ世田谷

# 今年度の特長

2023年度で新たに加えた点





# 学生と団体との接点強化

## 01 プログラムの事前提示

募集段階で受入れ団体のプログラムを知って応募することが可能になります。

## 02 複数の団体を知るイベントの開催

団体見学会にて気軽に様々な団体の現場を見ることが可能になります。

## 03 共通の目的の設定

団体見学会という共通の目的を学生と受入れ団体が持つことで、より良いコミュニケーションが生まれます。





# 区との協働の進化

## 01 区役所ツアーなどの検討

学生委員が提案する「若者と区役所を近づける」区役所ツアーなどの企画を検討します。

## 02 双方向での広報連携

事業を区に広報してもらうだけでなく、区に関連する事業情報を実行委員会のSNS等で発信します。





# 持続可能性の向上

## 01 実行委員会としての独立した体制

昨年までは実行委員会内のNPOが主体となりましたが、昨年度1年間で体制を整え、独立した組織となりました。

## 02 運営体制の変更

事務局を新たに設置し、運営サポートや情報の整理・発信をすることで、属人的にならない運営体制を敷きます。

## 03 コミュニティ財団との連携

世田谷コミュニティ財団と連携して事務局を設置することにより、持続可能性が高い組織づくりを行います。





# 受入れ団体など

20230519現在

岡さんのいえ  
TOMO



100人の  
本屋さん



羽根木  
プレーパーク



放課後等デイサービス  
凸凹Kidsすぺいす



ハーモニー  
(就労継続支  
援施設)



NPO人せたがや子育て  
ネット



一般社団法人  
おやまちプロジェクト



NPO法人neomura



上記をはじめとする、区内地域で活動するNPOや市民活動団体などと連携します。  
また、商・工・農などの民間が組織する地域組織や団体との連携も模索します。



地域インターンシップ世田谷

# 活動の様子

過去の活動の一部をご紹介します





## せたがや子育てネット

### 参加者の声：

おでかけひろば、赤ちゃん授業、産前産後のセルフケア講座、フードパントリー、地域子育て支援拠点研修に参加しました。

普段の生活で赤ちゃんに関わることは少なくても、関わるができる環境があることはとても大切だと学びました。

### 受入れ団体からのコメント：

団体内で事前説明会を開催しました。団体紹介・業務案内・どれに出られそうかななどを事前に学生と相談できてよかったです。







## 凸凹キッズすぺいす

### 参加者の声：

宿題やプログラムの補助を行いました。

障害の種類が多くひとりひとり特性が違うため、その子に合わせた対応をするのが難しく感じました。

また、伝えたいことをうまく言葉にできない子たちが多いため、感情や思考を読み取ることにとても苦労しました。

### 受入れ団体からのコメント：

近所の学生が活動に来てくれる機会となることが嬉しいです。受入れは、子どもが苦手だったり、普通とちょっと違う学生でもOKです。





## neomura

### 参加者の声：

タマリバタケに行って、タマリバタケ通信を作りました。普通に大学生活を過ごしているだけではあまり関わらないようなさまざまな年代の方と交流することができました。

とにかく地道に行動すれば、一見叶いそうにないような壮大な夢を実現することができることを教わりました。みなさんと協力して、少しずつ目標を達成していく些細な喜びも感じられました。

### 受入れ団体からのコメント：

学生にとっては、「勝手にやる」という自由度があったのが良かったのだと思います。





## おやまちプロジェクト

### 参加者の声：

ホコ天での活動とカレー食堂でのカレー作りを行いました。

多くの人に出会えたことが、とてもうれしいことです。人と人を繋げることができるこのような空間が、とても不思議で、面白いと思いました。

### 受入れ団体からのコメント：

普段から活動に参加している学生とインターン生との関わりがあったのが良かったと思います。

「来たいときに来ていい」よりも明確な役割があった方が良さそうです。





# 2022年度の評価・活用

## 協働に関する評価

区との協働事業であることで事業としての信頼性が高まり、団体へのインターン受け入れ依頼、学生への広報がしやすくなりました。

特に公的な仕事に関心がる学生にとっては、区職員からの直接話を聞ける機会もあり、良い経験となりました。

## 事業に関する評価

内容・規模はおおむね計画通りに進められました。

16名の若者が世田谷の地域の活動に出会い、インターンとして10団体のスタッフとともに経験を積み成長できる場をつくることができました。

## 成果の活用方法・展開

実績を見える化し、卒業生のコミュニティ化も図ることで、新しく学生が、より参加・活動しやすい環境を作ります。

受入れ団体と大学教員有志等のコミュニティもつくり、活動の基盤強化と支援者の増加へつなげていきます。



地域インターンシップ世田谷

本日ご覧の皆さんも  
ぜひ「受入れ団体」に！  
お気軽にご連絡ください

メール

[mail@internship-setagaya.net](mailto:mail@internship-setagaya.net)

ウェブ

<https://internship-setagaya.net>

ファックス

03-3374-1670

